



松戸市内の江戸川左岸では大規模な取水場の建設が進められています

## 柏の水の援軍(北千葉水道事業)建設進む

### 松戸地先の江戸川から取水

**28万人分が柏へ供給**

**53年度一部通水目ざす**

現在、柏市を含む東葛地域の水道では、その主要な水源は地下水に依存しています。地下水は

“限られた資源”とされ、汲み続けるといすれば枯れてしまう運命にあり、同時に市民生活にとって悪影響をもたらす地盤沈下などの公害を生じさせる要因にもなるとされています。一方、人口の増加、生活文化の向上、産業の発展が著しい東葛地域では、これら社会情勢の変化に伴い、水道用水の需要は年々増大するばかり。このため地下水に頼らず、江戸川の表流水に水源を求めるよう、柏市をはじめとする東葛各市町と千葉県の一県七市二町が共同で水源確保の協同化を図りました。これが、今後の水問題解決の“切り札”といわれ、各方面から期待されているもの。今号では、この北千葉広域水道事業のあらましに焦点をあててみようと思います。

柏市、松戸市、野田市、流山市、我孫子市、関宿町、沼南町、習志野市、八千代市、ならびに千葉県は、これら団体に水道用淨水を供

給する目的で昭和四十八年に設立されました。これには、(1)水道用

水源の確保が一元化できる(2)水道用水の広域的有効利用が図れる(3)広域的に一本化することによつ

て施設建設費が効率化できる(4)施設の配置、管理が一つにまとめられるなど水道行政を広域化することによって各団体の無駄な投資がはぶける利点があります。

この事業を進める上で、現在松戸市七右衛門新田地先の江戸川左岸では、この川の表流水を取り入れる取水場建設が進んでいます。ここで取水された表流水は、沈砂処理をする沈砂池を経て、脱臭されながら、さらにつの取水場から約五キロ圧離れた流山市桐ヶ谷地

先の淨水場へ送水。淨水場では、沈澱、ろ過、滅菌などの必要な処理を行い、一層きれいな水にして、各構成団体へ五台の圧送ポンプで送水されます。淨

水場は三十四万一千平方㍍という

広大な敷地をもち、全国でも規

模、内容ともに数なものとか。こ

こでも工事は急ピッチで進められ

ています。これに関連し、市内で

水場は三十四万一千平方㍍とい

う広大な敷地をもち、全国でも規

模、内容ともに数のものとか。こ

こでも工事は急ピッチで進められ

ています。これに関連し、市内で

水場は三十四万一千平方㍍とい

夏。日本各地で祭りの便りが聞かれますが、柏市にも古くから里人によつてつちかわれてきた郷土芸能があります。地方色豊かな雨乞いの舞『篠籠田の三匹獅子舞』豊作を占うユニークな祭り『大室の盆綱引き』のふたつがそれです。両方とも一時は後継者難で開催が危ぶまれた時もありましたが、その後の地元の人たちの暖かい手によって存続され、今年も『夏祭りの情緒』をたっぷりと味わせてくることになりました。



小学生でも、一目で何の木かわかるよう、名札が表示されています

## 生きた植物観察はいかが

「緑の広場」に77種類が自生

イヌシデ、コナラ、シラカシ――これは、市が昨年の九月、市と、中新宿の一市民の申し入れを――民が手軽に自然に親しめるように、受けた開放した、つくしが丘三丁目での「みどりの広場」でこのほど

若者が世話を人の拍子木の合図で、一斉にワッショイ、ワッショイの声をかけながら豪快に引き合います。その様子はまさにエネルギーの爆発。若者の額からは汗がしたり落ち、祭りは最高潮に達します。この激しい引き合いは三度行われ、最後の三回目に綱の真中に錆が入れられ、ふたつに切れたところで勝ち負けなく、両方自出たくシャン、シャンと手じめを打ち

確認された植物の一部です。

市では、同広場を開放したあと、自然観察などもできるよう、山林内の植生調査を行つてきましたが、その結果がこのほどまとまり、全部で七十七種類の植物が確認されました。この中には、現在までに関東では五本位しか見つかっていない「コバノクロウメモドキ」や千葉県で発見されたのは二本目という「アズサ」など、非常にめずらしい植物も含まれています。

市では、これら名前のわかつたものには、代表的なものを選んで、さっそく名札を表示。これによつて、生きた植物観察もできますので、この夏休みご家族で訪れてはいかがですか。



昔、埼玉のある村から雨乞いをいたのまれたこともある獅子舞。その知名度はかなり高かったです

# 今生きる郷土芸能



盆綱は、昔はその年の吉凶を占うものだけに、相手に負けまいと真剣なものでしたが、今では部落の楽しい夏祭りとなっています

若者が世話を人の拍子木の合図で、一斉にワッショイ、ワッショイの声をかけながら豪快に引き合います。その様子はまさにエネルギーの爆発。若者の額からは汗がしたり落ち、祭りは最高潮に達します。この激しい引き合いは三度行われ、最後の三回目に綱の真中に錆が入れられ、ふたつに切れたところで勝ち負けなく、両方自出たくシャン、シャンと手じめを打ち

本市の数少ない郷土芸能のうち、最も勇壮で男性的なものが、市北部の田園地帯、大室地区で行われる「盆綱引き」です。

毎年、八月十五日の夜、おくり盆をすませた後子どもや大人も盆踊りを楽しみ、これが終る九時半ころ、綱引きは開始されます。当

日の朝から「青カヤ」を刈り集め、竹をしんにして数人がかりで編み上げた長さ二十尺、中央部分の太さ直径三十七センチもある綱が会場となる道路の中央に用意され、それを引き手となつた部落の若者が世話を人の拍子木の合図で、一斉にワッショイ、ワッショイの声をかけながら豪快に引き合います。その様子はまさにエネルギーの爆発。若者の額からは汗がしたり落ち、祭りは最高潮に達します。この激しい引き合いは三度行

ます。最後に、ひょっとこが境内を滑らかに走ります。この中で行われます。

口伝えとして伝承されています。当時は、まず袋束をつけ勢ぞろいした人たちが、午後三時を期して行列をつくり境内に向ってなります。見物客の中を、ひょつとこが道端踊りをしながら露払いの役目を果していきます。寺の本堂前には竹を四本立て、しめ縄を張った「踊り場」が設けられ、舞

はこの中で行われます。

## 15日 大室の盆綱引き

### 勇壮で男性的な行事

すべてが終わります。

会場となる大室青年館へは柏駅西口から野田方面行きのバスに乗

り、「大室」で下車、徒歩十分です

西口から野田方面行きのバスに乗

り、「大室」で下車、徒歩十分です

西口から野田方面行きのバスに乗

ることは、綱引きの行事は全国に散在しており、その共通点が綱の豊作・凶作を占うことだ

り、やぶることを象徴したことだ

が年

に中央部分を大きくし、そこに神靈が

やぶることを象徴したことだ

が年</



# 家庭だよりマジンのため

妊娠乳児に健診券支給  
県外から転入された方

県外から転入された妊娠と児童を対象に「妊娠乳児一般健康診査受診票(無料券)」の交付が市役所一階母子保健相談室で行われています。また手続きの済んでいない方は忘れずに。

○受診の時期 □妊娠 妊娠後期(胎動自覚後)二回 □乳児

## 市民の声

### 高齢者事業団の設立を

逆井在住

高齢化社会に進んでいる現在、定年退職者の再雇用や、生きがい対策を目的とした高齢者事業団の設立を求める声が高まっています。私も定年退職者の一人として、柄市にはこのような計画があるのでしょうか。

【お答え】 高齢化社会に備え、高齢者の生きがいや健康対策は、今後ますます重要な課題となっています。私も定年退職者の一人として柄市にはこののような計画があるのでしょうか。

館(東京都荒川区)を会場に、「関東中学生剣道大会」が開か

### 関東中学生剣道大会で

去る八月一日、開成学園体育

ることを目的に、一都七県から選ばれた二十四校のお友たちで試合が行われました。

大将戦で延長戦にもつれ込むなど緊迫した試合を展開。この結果、あさやかに「コド」の一本勝ちを決め、準決勝、決勝へ進出。決勝戦では、群馬県代表の新里中学を二勝一敗で破り、初優勝を飾りました。

大将戦で延長戦にもつれ込むなど緊迫した試合を展開。この結果、あさやかに「コド」の一本勝ちを決め、準決勝、決勝へ進出。決勝戦では、群馬県代表の新里中学を二勝一敗で破り、初優勝を飾りました。

大将戦で延長戦にもつれ込むなど緊迫した試合を展開。この結果、あさやかに「コド」の一本勝ちを決め、準決勝、決勝へ進出。決勝戦では、群馬県代表の新里中学を二勝一敗で破り、初優勝を飾りました。

大将戦で延長戦にもつれ込むなど緊迫した試合を展開。この結果、あさやかに「コド」の一本勝ちを決め、準決勝、決勝へ進出。決勝戦では、群馬県代表の新里中学を二勝一敗で破り、初優勝を飾りました。

大将戦で延長戦にもつれ込むなど緊迫した試合を展開。この結果、あさやかに「コド」の一本勝ちを決め、準決勝、決勝へ進出。決勝戦では、群馬県代表の新里中学を二勝一敗で破り、初優勝を飾りました。

大将戦で延長戦にもつれ込むなど緊迫した試合を展開。この結果、あさやかに「コド」の一本勝ちを決め、準決勝、決勝へ進出。決勝戦では、群馬県代表の新里中学を二勝一敗で破り、初優勝を飾りました。

## マジン

## の学校

〔柏七小〕

つみあげの教育を

午前八時十五分、子どもと教

研究に取り組んでいます。この夏休みを利用してそれの実現のために創意工夫を検討して

更に本年度は「より良い環境を」という教師の願いから、

「国語」「生活指導」を中心

に取り組んでいます。この夏休みを利用してそれの実現のために創意工夫を検討して

今年度は「より良い環境を」という教師の願いから、

「国語」「生活指導」を中心